

- 問1 1457年、現在の北海道ノ国町周辺において、進出してきた和人に対してアイヌの人々が蜂起しました。この戦いでアイヌの人々を率いた指導者は誰ですか。 (2021年 北海道公立入試 類似)
1. アテルイ 2. 坂上田村麻呂 3. シャクシャイン 4. コシャマイン
- 問2 足利義満が京都の北山に「金閣」を建立した歴史的背景について説明したものとして、最も適切なものはどれか次の中から選びなさい。 (2022年 岡山県公立入試 類似)
1. 元軍による二度の侵攻を退けたものの、十分な恩賞を与えられなかった武士たちの不満が全国に広がっていた。 2. 応仁の乱によって幕府の権威が失墜したため、将軍の権力を立て直そうと豪華な文化を奨励していた。 3. 南北朝の合一によって政治的な混乱を収束させ、公家と武家の双方の権限を掌握して幕府の全盛期を築いていた。 4. 後醍醐天皇による建武の新政への反発から、新しい天皇を擁立して幕府を開いた直後の混乱期にあった。
- 問3 15世紀初頭から始まった室町幕府による日明貿易（勘合貿易）について、幕府の権威が衰退した戦国時代に入ると、貿易の実権は有力な守護大名へと移り変わりました。この貿易の実権をめぐる激しく争い、拠点の港である博多や堺の商人と結びついて活動した二つの有力な守護大名の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2022年 鳥取県公立入試 類似)
1. 武田氏と今川氏 2. 島津氏と毛利氏 3. 大内氏と細川氏 4. 北条氏と上杉氏
- 問4 室町幕府の第3代将軍である足利義満が、朝貢という形で明との貿易（日明貿易）を行い、そこで得た豊かな経済力を背景に保護・奨励した出来事として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 岩手県公立入試 類似)
1. 出雲の阿国という女性を保護し、歌舞伎の原型を作らせた 2. 雪舟を明へ渡航させ、水墨画の技法を学ばせた 3. 千利休に茶室を造らせ、わび茶を完成させた 4. 観阿弥・世阿弥の親子を重用し、能を大成させた
- 問5 室町時代に展開された文化の大きな特徴は、京都の伝統的な公家文化と、新興の武士による武家文化が結びついた点にあります。このような文化の成り立ちを説明した表現として、最も適切なものはどれか。 (2020年 福岡県公立入試 類似)
1. 武家が公家を完全に排除し、軍事的な実用性のみを追求した。 2. 伝統的な公家文化と台頭する武家文化が融合し、独自の発展を遂げた。 3. 江戸の町人を中心に、欧米の思想や生活様式を積極的に取り入れた。 4. 大陸との交流を絶ち、地方の農民による素朴な文化が中心となった。
- 問6 室町時代に足利義満が明（中国）との間で始めた貿易では、「勘合」と呼ばれる札が使用されました。このように、わざわざ特別な札を照らし合わせる仕組みを取り入れた本来の目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 静岡県公立入試 類似)
1. 正式な貿易船と、倭寇と呼ばれる海賊による船を明確に区別するため 2. 明からの輸入品である鉄砲や火薬に高い関税をかけるため 3. 日本国内の商人が勝手に海外へ銀を輸出することを禁止するため 4. キリスト教の宣教師が日本へ密入国するのを厳重に監視するため
- 問7 室町幕府が勘合（勘合符）を用いてまで、明との貿易を管理・継続した経済的な目的として、貿易品の特徴から推察される理由を次の中から選びなさい。 (2021年 京都府公立入試 類似)
1. 国内の銅や硫黄の生産量が過剰になり、それらを処分するために明を唯一の廃棄先として利用していたから。 2. 国内で貨幣を鋳造する技術や体制が整っていなかったため、明から輸入した銅銭を国内に流通させる必要があったから。 3. 明から輸入される綿織物が国内の武士の軍服として不可欠であり、幕府がその流通を独占して権威を高めるため。 4. 明の皇帝から贈られる生糸や陶磁器をすべて寺社に寄進し、宗教勢力を幕府の支配下に置くための手段としていたから。
- 問8 室町時代に商工業者が「座」を形成し、特定の公家や寺社といった権力者と結びついて活動していた主な目的は何ですか。その背景として適切なものを選びなさい。 (2019年 香川県公立入試 類似)
1. 幕府から直接的な支配を受けないよう、朝廷の権威を利用して海外貿易を推進するため 2. 特定の商品の販売を独占し、他者の参入を防ぐとともに、活動の安全を保障してもらうため 3. 農村での生産力を高めるために、全国各地に定期市を開設して物資の流通を統一するため 4. 問屋が中心となって手工業者に道具や原料を貸し、製品を安く買い叩く仕組みを作るため
- 問9 鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要所に集まり、馬の背に荷物を載せて物資の運送を専門に行った業者を何と呼びますか。当時の生活の様子を描いた絵巻物などでは、大きな荷を積んだ馬を引いて歩く人々の姿として表現されています。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)
1. 座の商人 2. 飛脚 3. 問丸 4. 馬借
- 問10 日本の中世（鎌倉時代・室町時代）において、馬を利用して荷物を運送し、物資の流通に重要な役割を果たした業者を何と呼びますか。 (2022年 茨城県公立入試 類似)
1. 酒屋 2. 馬借 3. 問丸 4. 土倉
- 問11 室町時代に足利義満が明（中国）との間で始めた貿易では、「勘合」と呼ばれる割符が使用されました。このような仕組みが導入された背景にある、当時の東アジア情勢として最も適切な説明はどれですか。 (2020年 福島県公立入試 類似)
1. 平清盛が推進した日宋貿易の形式を継承し、大量の銅銭を効率よく輸入するため 2. 沿岸部で海賊行為を行っていた倭寇と、正式な貿易船を区別する必要があったため 3. キリスト教の布教を防ぎながら、幕府が海外貿易の利益を独占しようとしたため 4. 朱印状を持つ商人にのみ渡航を許可し、東南アジア諸国との取引を管理するため
- 問12 15世紀の琉球王国において制作された「万国津梁の鐘」の銘文には、琉球が「三韓（朝鮮）」の優れた文化を集め、二つの大国の間に位置する「蓬萊島（理想郷）」であると記されています。この銘文の中で、琉球がその中間に位置し、密接に交流していると述べられている二つの国の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 山梨県公立入試 類似)
1. 中国と日本 2. イギリスと朝鮮 3. アメリカと日本 4. オランダと中国
- 問13 14世紀、後醍醐天皇による建武の新政が崩壊した後、約60年にわたり二つの朝廷が並立する南北朝の動乱が起こりました。この動乱が始まった経緯の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 埼玉県公立入試 類似)
1. 源頼朝が平氏を倒した後に立てた京都の朝廷と、後鳥羽上皇が平泉で開いた朝廷が対立した。 2. 後醍醐天皇が堺を拠点に新しい政治を始めたことに反発し、足利尊氏が京都で別の朝廷を組織した。 3. 足利尊氏が京都に光厳天皇を立てたのに対し、京都を逃れた後醍醐天皇が奈良の吉野で別の朝廷を開いた。 4. 足利尊氏が鎌倉に新しい天皇を立てたのに対し、後醍醐天皇は京都の朝廷を維持して対抗した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 コシャマイン	15世紀の室町時代、渡島半島（北海道南部）に進出した和人と、先住民であるアイヌの人々の間で対立が深まりました。1457年にアイヌの首長であったコシャマインを中心に大規模な戦いが起こり、多くの和人の拠点が落とされましたが、最終的には和人側によって鎮圧されました。
問2	答え 3 南北朝の合一によって政治的な混乱を収束させ、公家と武家の双方の権限を掌握して幕府の全盛期を築いていた。	金閣が建てられた時期は、義満が長年の課題であった南北朝の対立を終わらせ、幕府の権力が最高潮に達していた時期にあたります。金閣の建築様式に、公家の寝殿造と武家の禅宗様を取り入れられていることは、彼が公武両方の頂点に立っていた政治状況を反映しています。他の選択肢は、幕府成立期（尊氏）、幕府衰退期（義政以降）、あるいは鎌倉時代の出来事です。
問3	答え 3 大内氏と細川氏	室町時代の日明貿易は、足利義満によって明への朝貢形式で開始されましたが、応仁の乱以降は幕府の統制力が弱まり、経済的な利益を求めて有力な守護大名が台頭しました。具体的には、博多を拠点とする大内氏と、堺を拠点とする細川氏が貿易の利権をめぐって激しく対立しました。1523年には明の寧波（ニンポー）で両氏の衝突事件が起きるなど、貿易の主導権が幕府から地方勢力へ完全に移行したことがこの時代の特徴です。
問4	答え 4 観阿弥・世阿弥の親子を重用し、能を大成させた	足利義満は日明貿易（勘合貿易）を独占することで莫大な富を築き、その財力を背景に北山文化と呼ばれる華やかな文化を支えました。義満は観阿弥・世阿弥という優れた才能を持つ親子を保護し、伝統芸能である能を完成させる大きな役割を果たしました。出雲の阿国や千利休は、時代が異なる（安土桃山時代など）人物です。
問5	答え 2 伝統的な公家文化と台頭する武家文化が融合し、独自の発展を遂げた。	室町時代は幕府が京都に置かれたことで、足利將軍家をはじめとする武士が、京都の貴族（公家）が持つ教養や伝統に触れる機会が増えました。これにより、武家らしい力強さと公家らしい優雅さが混じり合った文化が形成されました。三代將軍義満の北山文化や、八代將軍義政の東山文化がその代表例です。
問6	答え 1 正式な貿易船と、倭寇と呼ばれる海賊による船を明確に区別するため	当時の東アジア沿岸部では、倭寇と呼ばれる海賊集団による略奪行為が深刻な問題となっていました。明の皇帝から倭寇の取り締まりを求められた足利義満は、明との正式な国交を樹立したうえで、半分に割った「勘合」という札を互いに照らし合わせる方法を採用しました。これにより、正規の貿易船であることを証明し、密貿易や海賊行為を防ごうとしたのがこの貿易の大きな特徴です。
問7	答え 2 国内で貨幣を鋳造する技術や体制が整っていなかったため、明から輸入した銅銭を国内に流通させる必要があったから。	日明貿易の大きな特徴の一つは、日本が「銅銭」を大量に輸入していた点にあります。当時の日本国内では、平安時代末期から続く貨幣経済の進展に対し、自前で信頼性の高い貨幣を鋳造する体制が不十分でした。そのため、幕府は明との貿易を通じて得た銅銭を国内の決済手段として活用し、経済の安定と拡大を図りました。これが、倭寇（海賊）と区別するための勘合を用いてまで貿易を独占・管理した重要な経済的動機です。
問8	答え 2 特定の商品の販売を独占し、他者の参入を防ぐとともに、活動の安全を保障してもらうため	中世の商業環境は、現代のように法律で営業の自由が保障されていたわけではありません。そのため、商工業者は強力な権威を持つ公家や寺社の傘下に入ることで、他者の介入を排除して利益を独占し、不当な課税や物理的な妨害から身を守る必要がありました。このように権力者に依存して特権を得るのが「座」の仕組みです。
問9	答え 4 馬借	中世の日本において、馬を利用して物資を運搬することを職業とした人々を馬借と呼びます。彼らは港（津）や関所、宿場といった交通の要点に拠点を置き、陸上交通における流通の主役として活動しました。なお、問丸は港湾での物資保管や中継を行う業者であり、飛脚は主に江戸時代に発達した通信制度を指します。
問10	答え 2 馬借	鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要所に拠点を置き、馬を使って荷物を運んだ運送業者のことです。物資の流通が活発になったこの時代において、各地の市場や港を結ぶ重要な物流の担い手となりました。
問11	答え 2 沿岸部で海賊行為を行っていた倭寇と、正式な貿易船を区別する必要があったため	室町時代の初期、朝鮮半島や中国沿岸では「倭寇」と呼ばれる海賊集団が活動し、略奪行為を行っていました。明の皇帝は日本に対して倭寇の取り締まりを強く要求しました。これに応じた足利義満は、明との正式な貿易を行う際、中央に文字を書いて二分割した「勘合」という証明書を持参させ、明側の所持するものと照合させることで、正式な使節と海賊を厳別する仕組みを整えました。
問12	答え 1 中国と日本	琉球王国は地理的に東アジアのほぼ中心に位置しており、その利点を最大限に活用していました。万国津梁の鐘に刻まれた「万国津梁」という言葉には「世界の架け橋」という意味があり、当時の中国（明）や日本、朝鮮、東南アジア諸国を結ぶ中継貿易の拠点として繁栄した歴史的背景を象徴しています。
問13	答え 3 足利尊氏が京都に光厳天皇を立てたのに対し、京都を逃れた後醍醐天皇が奈良の吉野で別の朝廷を開いた。	鎌倉幕府を滅ぼした後醍醐天皇は、天皇中心の政治である「建武の新政」を行いましたが、武士の支持を得られず失敗に終わりました。武士の不満を背景に挙兵した足利尊氏は、京都を占領して光厳天皇を擁立し、北朝としました。一方、京都を逃れた後醍醐天皇は、奈良の吉野に逃れて独自の朝廷（南朝）を開きました。これにより、三代將軍の足利義満が南北朝を合一するまで、全国の武士が二つの勢力に分かれて戦う時代が続きました。